

横浜市瀬谷区における区民文化センター基本構想検討委員会(第1回) 議事録

日 時：平成26年11月26日(水) 13:30~16:00

場 所：瀬谷区役所5階大会議室B

出席者：(1) 委員12名

相原信行委員、浅野康則委員、足立文委員、宇佐美あや子委員、小川肇委員、佐々木秀彦委員、清水靖枝委員、鈴木紀代子委員、中野しずよ委員、新谷たか枝委員、間瀬勝一委員、松本幸一委員(50音順)

(2) 事務局等

瀬谷区長、瀬谷区副区長、区政推進課長、地域振興課長、文化観光局文化振興課、櫻井淳計画工房 ほか

資 料：別紙のとおり

1 開会

瀬谷区長

このたび、ご多忙の中委員をお引き受けいただいたことに感謝申し上げたい。平成22年11月、新しい公会堂がオープンし、ちょうど4年が経過した。音響が良いということで好評をいただいている。

しかし、活動団体の皆さんからは、発表の場が足りないとか、練習の場が欲しいという声をいただいていた。

ご案内のとおり、組合施行の瀬谷駅南口第1地区市街地再開発事業が具体的になってきた。その再開発ビルの中に、待望の区民文化センターを整備する方向で検討を進めることとなった。ぜひ皆様の立場から忌憚なき意見やアドバイスをいただき、今の瀬谷区に必要な機能を中心にして、使い勝手のよい区民文化センターを造ってまいりたい。

区政推進課長

(委員、事務局等紹介)

(資料2-1、資料3、資料5の説明)

資料2-2、「横浜市瀬谷区における区民文化センター基本構想検討委員会運営要綱」をご覧ください。本委員会は、要綱第4条により、一般公開と定められている。なお、本日は、傍聴者はいない。なお、「タウンニュース」の取材があるので了承いただきたい。

資料2-1「横浜市瀬谷区における区民文化センター基本構想検討委員会条例」第5条第1・2項に「委員会に委員長及び副委員長を1人置く。」また、「委員長及び副委員長は、委員の互選によって定める。」とある。

そこで、本選定委員会の委員長を互選により、選出していただきたい。

一同

(発声なし)

| | |
|--------|--|
| 区政推進課長 | 推薦がないようなので、事務局からご提案させていただきたい。 |
| | 委員長については、旭区をはじめ4区の区民文化センターの館長を歴任されたほか、文化施設の運営の経験が豊富であり、社団法人全国公立文化施設協会アドバイザーでいらっしゃる間瀬委員に、副委員長については、瀬谷区を代表して、瀬谷区連合町内会自治会連絡会会長の相原委員に、お願いしたいと考えている。 |
| 一同 | (異議なし、拍手) |
| 間瀬委員長 | <p>これまで旭区のサンハート、泉区のテアトルフォンテ、神奈川区のかなつくホール、栄区のリリースについて、館長を務めてきた。区や区民と施設がどのような形でつながっていくのか体験してきた。</p> <p>今回は恩返しがしたく、皆さんのご協力でいい答申ができるよう、お願いしたい。</p> |
| 相原副委員長 | 大役を仰せつかった。皆さまのご支援により進めていければと思っている。よろしくお願いしたい。 |
| 間瀬委員長 | それでは、議事に入る前に、条例に基づきまして、定足数の確認をさせていただきます。事務局よりお願いいたします。 |
| 区政推進課長 | <p>「横浜市瀬谷区における区民文化センター基本構想検討委員会条例」第6条第2項に「委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。」とありますが、本日の出席委員数は、現在定数12名のうち11名でございます。</p> <p>出席委員数は過半数以上ですので、本会が成立していることを御報告いたします。</p> |
| 間瀬委員長 | 報告により、本委員会は成立していることが確認できました。それでは、議事を進めたいと思います。 |

2 議題等

瀬谷区及び周辺の文化面における現状の確認、瀬谷区民文化センターに関する意見交換

| | |
|---------|--|
| 区政推進課長 | (資料4)、資料3項目3の説明) |
| 櫻井淳計画工房 | (資料6)、資料7の説明) |
| 間瀬委員長 | 事務局からの説明が終わったので、皆様それぞれの立場で、「このような施設があつたらいい」「このような使い方ができたらいい」といった意見をご発言いただきたい。また、先程の説明で不明な点があれば質問をしていただいても構わない。 |
| 浅野委員 | 瀬谷区民は文化センターの整備をかねてから要望してきた。瀬谷区美術展に250点の出展数があることを考慮してほしい。 あざみ野、関内、戸塚にギャラリーはあるが、横浜西部、特に相鉄沿線に大きなギャラリーがない。ゆめはま 2010 プランの三館構想にも瀬谷区は入っていなかった。 瀬谷区、旭区、保土ヶ谷区といった相鉄沿線にも出展者や美術に関心の高い人がいることも事実と思う。美術ギャラリーを造ってもらったら、大和市も含めて沿線のアート交流に繋がる。 |
| 足立委員 | せっかく造るのだから、現在だけではなく将来のニーズにも合うものに。可変性、柔軟性を持った施設にしていくべきで、そのためには、運営する側も利用する側も、その都度工夫しながら使っていく必要がある。20年、30年使える施設はどんなものなのか考えていけると良い。 ところで、今回整備する区民文化センターは、利用料は払って使うのか。貸館が中心なのか、それとも施設として自主事業を実施していくものなのか。 また、横浜市として区民文化センターと公会堂の役割分担はどうなっているのか。 |
| 事務局 | 利用料金は、条例に基づく料金制度での指定管理者による運営となる。貸館もしつつ自主事業も実施していくことになる。区民文化センターの整備については、中期4か年計画のなかで、区の特性に合わせた必要な機能の整備を行おうとしている。 |
| 間瀬委員長 | 全ての区に公会堂はある。区民文化センターとの役割分担は大事なところで、運営の面にもかかってくることではある。 |

宇佐美委員

区民文化センターを造りたいと、市の中でも一番に声を上げたのが瀬谷区。以来数十年経っている。瀬谷公会堂も新しくなったので、どこもかしこも同じようなものが出来てもつまらない。一番足りないものは展示部門だが、展示だけということでは運営が成り立たない。建てるからには、円滑に運営できることを考えなくてはならない。また、展示だけではなく、置き舞台などを使って小規模な舞台や式典など、多目的に利用できるように。

小川委員

今度この機会を逃したらいつできるのか分からない。絶対にお願ひしたいと思っている。一旦建てたら50年は建て直しが無い。文化協会では琴、三味線、茶道など多くの団体があるが、利用者が高齢化している。高齢者に配慮した構造に。また、防音については、駅の近くなので近隣の方に迷惑を掛けないようなものに。さらに、多目的に使えるように、500㎡、600㎡といったものを間仕切って使えると良い。その他、乳幼児を預かる場所がある等、若い人たちも文化活動に参加できるような区民文化センターにしたい。

この委員会は4回しかないので、具体的な案を元に効率的に議論しないとまとまらない。

間瀬委員長

基本構想検討の進め方について事務局からもう少し説明をお願ひしたい。

事務局

資料5にあるように、頂いた意見をもとにある程度の配置や機能を第2回、3回には示して、それに対して意見をいただくということを考えている。意見をまとめて、基本設計に反映していく。

清水委員

瀬谷公会堂と区民文化センターの違いを明確に出すべき。小さな規模でコンサートをやりたいという意見もある。気軽に足を運べるような施設を。公会堂があることを踏まえると、それに足りない物は小さなホールと展示施設ではないか。

鈴木委員

瀬谷駅前に施設ができれば、町全体が活気づいて発展するのではないかと。瀬谷の高齢者は、元気で色々なことに挑戦している。そのような方々がどういふものをやりたいのか、それが分かればそれに合わせて施設をつくることのできるのではないかと。利用料は条例で決まっていると聞いたが、生徒たちにとっては高い。学生向けの割引のようなものがあるとありがたい。

中野委員

瀬谷からは遠いが、新横浜にラポールという施設があり、障害のある方向けにシアターや、ボックスという多目的室がある。字幕付きの催しや、高さの上下するレンジ・流し台などの設備もある。

文化施設という部分でラポール並みの設備が瀬谷区にもあると良い。

瀬谷区は、市内で障害者手帳の持ち主の率が高い。また養護学校、支援学校が4つある。そういう方々が一緒に楽しめる場であると良い。発表の場だけでなく、練習する、交流する場があれば、多世代の交流やコミュニティ形成が進むのではないかと。

青少年の育成という点でいうと、都筑多文化・青少年交流プラザのように、防音のブースがあると、学校に行きづらい子どもたちでも集まって楽器の練習を通じて交流できたりする。

公会堂の会議室は広いようで狭く、天井が低く、机ばかりで使いにくい。区民の集まりやすい場所、文化や歴史を学んだり、食の伝承などを行ったりと、色々なことで集まれる場があると良い。

間瀬委員長

社会包摂という言い方があるが、ノーマライゼーションのその先の話になる。新しく造る施設なので、そうした基本的な考え方を前提に検討していくことになると思う。例えば大阪のビッグ・アイ国際障害者交流センターは、見事に細かいところまで配慮されている。

新谷委員

人口ピラミッドのすそ野部分、若い人をこの瀬谷区に増やしたいというのが私の夢。瀬谷区を若い人が住みたいという場所にしたい。

20年前のシンガポールは「お金をためて他所の国に移住する事が願いだ」という風潮があり、若い人がどんどん出て行ってしまっていた。しかし今は国も人も意識が変わってきて、文化度が高い。日本でも同じで、黙っていると若い人たちは、技術を身につけたらどんどん日本を出て行ってしまおうと思う。またその前に瀬谷を出て行ってしまおう。瀬谷区でも同じように芸術、文化に対する意識を変えたい。

芸術や文化を充分に楽しめること、それは贅沢ではない。生きがい、生きる力になるものを区民文化センターでつくりたい。若い人だけではなく、高齢者も楽しめるようなホールを。例えば目黒のパーシモンホールの小ホールが素晴らしい。席が移動できて平土間になってパーティや賀詞交換会ができる。前半分だけを平土間にしたりもでき、残響も1.0秒と良いのでバイオリンの発表会もできる。そうしたホールなら、1人2人の生徒でも発表会ができる。それなら発表会をやってみたいというピアノの先生は瀬谷区に沢山いるし、施設ができればそのように考える人が瀬谷に集まってくる。小さなコンサートができれば、文化度が上がっていく。

松本委員

美術展は瀬谷センターの体育館を使っているが、手作りの会場運営で、照明がない等展示には不十分な状況の中、250点を展示している。展示数をこれ以上増やせない。大きな作品が展示できる会場にして欲しい。

また、旭、泉、戸塚、大和などの美術団体と交流を考えている。大きなイベントも考えられる。

瀬谷区に小規模な展示をする場所がないので、区外に行っている状況。小規模な展示をしたいとか個展を開催したいというような人たちに対する利用価値を上げてもらおうと、多様な利用が見込まれる。

また瀬谷区には絵手紙、民芸工芸品をやっている人も多い。そうした人たちにとって、小規模な展示ができる場があると良い。

人を集めることで周辺も潤ってくる。美術展に人が集まることで付帯効果も出る。100人規模の懇親会ができるホールが欲しい。ホールができれば、利用方法は色々考えられる。

高齢化が進んでいる。若い人の取り込み方が課題。子どもと高齢者が一緒になって取り組むことを考えるのが大事。子どもと高齢者が一緒に楽しむイベント等ができる施設に。隼人高校からも瀬谷区美術展の出展・設営に参加してもらっている。そうした人たちを取り込むイベントを考えている。瀬谷公会堂と区民文化センターの使い分けを考えないといけない。文化協会と美術展合同のイベントを考えており、舞台系を文化協会が公会堂で、美術展委員会が展示系を行っていくことを検討している。そこで、私たち美術展は区民文化センターに力を入れたいと考えている。

小川委員

他都市の施設には画一的なものが多い。機能だけを追求するのではなく、そこに木、紙などの和の文化を取り入れたり、暖かいかたちの、瀬谷区独自のオリジナリティがある区民文化センターにして欲しい。

佐々木委員

東京都美術館は、年間270団体がギャラリーを利用し、130万人が観覧する。大型企画展は100万人。実は、観覧者は市民利用の方が多い。

設備はどんどん新しくなる。最初立派だったものが、古くなるが立派すぎて替えられないということもある。持続可能性と可変性をどう組み合わせるかだ。利用者の方々が自ら機器を操作することを考えると、高齢者の方でも安全に、使いやすい配慮が必要。

また、展示するまでの準備のために、バックヤードなどの施設整備がしっかりされていないと、表に出てくるところも使いにくいという印象がある。

相原副委員長

地区センターの中では阿久和が番最初にできたが、土地の交渉が大変だった。この区民文化センターは、このチャンスに様々な意見を取り入れて、良いものを作ってもらいたい。

間瀬委員長

文化庁が地域の文化施設全般にわたって、社会包摂（ソーシャルインクルージョン）という考え方を、文化芸術振興基本法に基づく文化芸術の振興に関する基本的な方針で示している。障害者や高齢者、若い人、子どもの誰もが使いやすいホールであるべきと思う。運用と費用のバランスが必要。

杉田劇場（磯子区民文化センター）は、敷居を低くし、子どもたちなども小さいうちからホールに出入りできるような工夫をしていた。運営の中のことで、指定管理者制度を導入するのであれば、ハードではなくソフトの問題になってくる。構想から実施設計に入る際に、高さ、段差のあるなしなどの問題について気をつけて頂きたい。

基本構想のなかで、社会包摂という言葉を使うかどうかは別にしても、高齢者や子どもが気楽に出入りできるよう配慮した施設にしてほしい。

浅野委員

未来に向けて、横浜市のなかで、これからの位置付けをどう考えるか。明日、明後日使えるものではなく、10年、15年育てて、返ってくるようなものを打ち出していければ使える施設になる。また、地域性を汲んで考えていかななくてはならない。あまり枠を広げすぎないで、かつ未来の中に転化できるようなものであればと思う。

清水委員

瀬谷区に昔からあるお囃子「阿久和囃子」だが、後継者がいないため、立ち消えかけている。瀬谷の伝統的なものをどこかに残しておかないといけないと思う。伝統芸能をどう伝承していくかということも含めて考えるべき。どこかに伝承の場があれば続いていくのではないか。伝承の場を区民文化センターの中に据え置くことも考えるべきなのでは。とても大切だと思う。

間瀬委員長

中央線の高円寺に、「座・高円寺」という施設がある。そこのリハーサル室は、98%固定客で埋まっている。高円寺は阿波踊りが盛んであり、その活動を施設として支援をしている。伝統芸能をどうやって支援していくかというやり方は、慎重にしなくてはいけないところもあるが、黙っているとなくなっていくかもしれない。

小川委員

どこの施設も悩んでいるのがランニングコストの点。税金を使う訳で、多大なランニングコストをどうカバーするか。利用者に負担させるわけにもいかない。そのバランスをどうとるかだ。また、利用を増やすためにも多目的、多用途に使うことができるというのも忘れてはいけない要素である。

佐々木委員

ミュージアムの運営のここ 10 年の大きな課題は、その施設が何を目指して行くのかという拠り所である。一般的な美術館というものはなく、何を扱うのか、発表の場としてギャラリーを展開させるとか、それぞれ特色があるはず。

瀬谷区の区民文化センターは、何を特色にするのか、何を拠り所にするのか、拠り所とする柱が何本かあった方がいい。使っていく際に、そこがしっかりしていくと良い。施設に魂を吹き込んでいくことが大事。拠り所がないと、使う人と運営する人との間で一般論のせめぎ合いになってしまう。

未来に向けてどういう場にしたいのかを表す、「これだよね」というキーワード、キャッチフレーズがひとつふたつでも・・・三つも見つけられればこの委員会も成功したと言ってよいのではないか。

ちなみに、東京都美術館は、約 85 年の歴史がある。2012 年にリニューアルオープンした際、機能を大きく変えた。設置条例に書いてあるのは「芸術の振興」のみである。そこで、アートへの入口を目指す、ということを考えた。敷居の低い美術館ということで、いろいろな方が出展したり、様々な芸術の入口になっている。「創造と共生の場」になることを目指している。

社会包摂の話も意識している。障害者の方の作品を展示したり、障害者の方の鑑賞の機会を設けたり、子どものミュージアムデビューを促したり、高齢者の方の支援など意識して取り組んでいる。市民の「アートコミュニケーター」150 人がサポーターとして活動している。創造と共生の場をつくるという理念をつくったことにより、そのためのコーディネーターの費用を引き出してくることができた。

アクションにつながる理念の力は大きい。それを作らないと動かない。一般的な機能をどうもたせるのか、その機能を使って何をを目指すのかを考える。理念はよくある言葉にできてしまっているはいけない。血の通った、地べたから湧いてくるような、瀬谷ってこうだよね、というようなキーワードが見付けられると良い。

間瀬委員長

次回までにコンセプトを一人 2 つくらい考えてきてはどうか。

佐々木委員

補足すると、「創造と共生の場」という言葉だと堅いので、アートコミュニティを作ろう、という言葉にした。アートを介して人々が集まる場、地縁に密着してないが、上野に来たら、ただ鑑賞するだけではなく、当事者としての関わるのりしろがある、何か集って価値観をつくっていけるといようなことを使命としてやっていると良いと考える。

| | |
|--------|--|
| 松本委員 | 瀬谷区は福祉保健活動を色々やっている。高齢者が区民文化センターを使って美術、芸術の取組を作る場所があれば、全体的な活性化につながるのではないか。福祉と文化のミックスしたもの、それができるかどうか。それが瀬谷区としての形、新しい活動になると感じる。 |
| 間瀬委員長 | 個人的に文化は福祉の一面と思っている。心にとっての福祉が文化だと思う。 |
| 足立委員 | <p>各地域の活動の状況を区民文化センターに反映させていくことだと思う。文化はひとつの素材であって、地域活動のひとつの材料として文化活動がある。</p> <p>地域で普段活動している方の活動の場が必要。活動に参加していない人をどう取り込むかが問題であるが、例えば働き盛りの人も子どもを通じて取り込むなどの工夫を考えたい。</p> <p>何が正解かというのはなかなかないが、地域の人たちと悪戦苦闘しながら、自分たちで納得したものを実現していくということで進めていくしかない。</p> |
| 相原副委員長 | もう少し枠を広げて、色々な意見を取り入れれば素晴らしいものができるのではないかと。自治会町内会連合のメンバーも自分ひとりだけじゃなくて、他の方の意見も聞いていただきたい。 |
| 事務局 | 自治会町内会連合の会議を通じて委員会の報告をしていく。そこで意見をいただいて、事務局で整理させていただきたい。 |
| 宇佐美委員 | <p>過去に、区民文化センターを造るならば、大きな、充実したものを作ってもらいたいと話をさせていただいた。そこで、例えば、若い方でも簡単な結婚披露宴ができるような場所があってもよいのでは、ということを行ったことがあった。また、良い演奏、良い展示など芸術鑑賞をした後に、フロアでコーヒーなど飲めるようなカウンターでもないと良い。</p> <p>使う側も、造る側も、自分たちの勝手に言っているだけでは済まない。自分のことのように考えてくれたら良いかなと思う。設備はあればあるだけ、良いものだけ造ったらよいと思うが、それを全部実現するのは難しいのではないかと感じる。</p> |
| 間瀬委員長 | みなさんからいろいろ話をいただいた。次回までに事務局でまとめていただくようお願いしたい。本日はこれで終了としたい。 |